
Change & Innovation

株式会社メガチップス
2009年3月期1Q 決算資料

<http://www.megachips.co.jp/>

目次

1. 経営理念・ミッション	3
2. 2009年3月期 1Q業績報告	4
3. 2009年3月期・中期経営方針	14
4. 2009年3月期・中期業績計画	20
5. まとめ	31

経営理念・ミッション

経営理念

「革新」により社業の発展を図り
「信頼」により顧客との共存を維持し
「創造」により社会に貢献し続ける存在でありたい

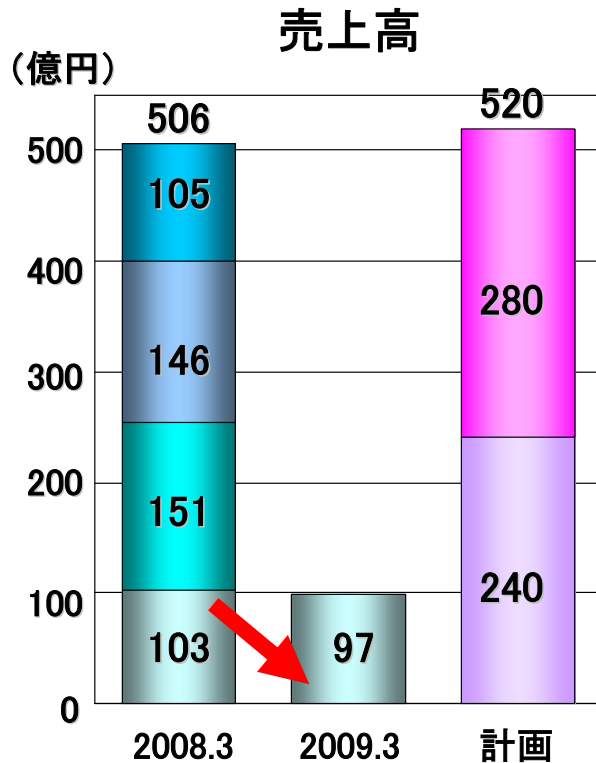
ミッション

高い技術力をベースに、
独創的な商品を世の中に提供することにより、
人々の安心や安全、楽しい生活、
豊かなコミュニケーションの実現に貢献する。

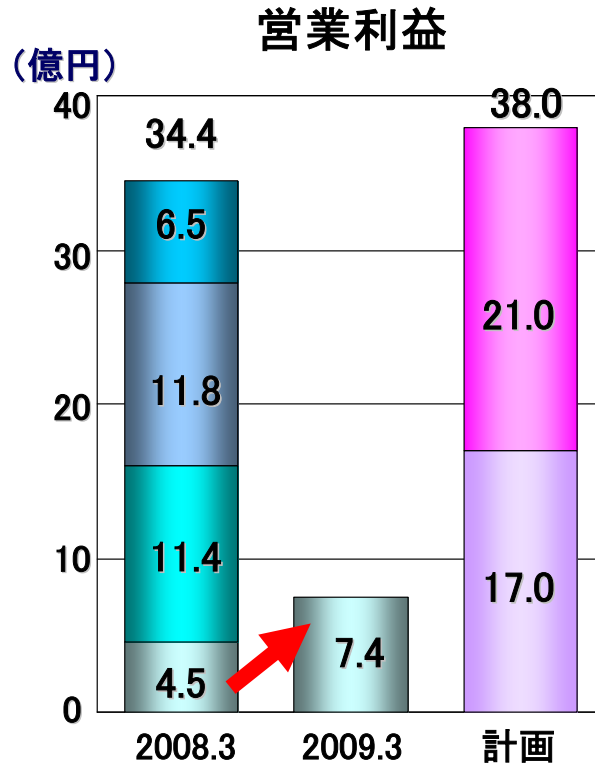
2009年3月期 1Q業績報告

1Q業績(連結)

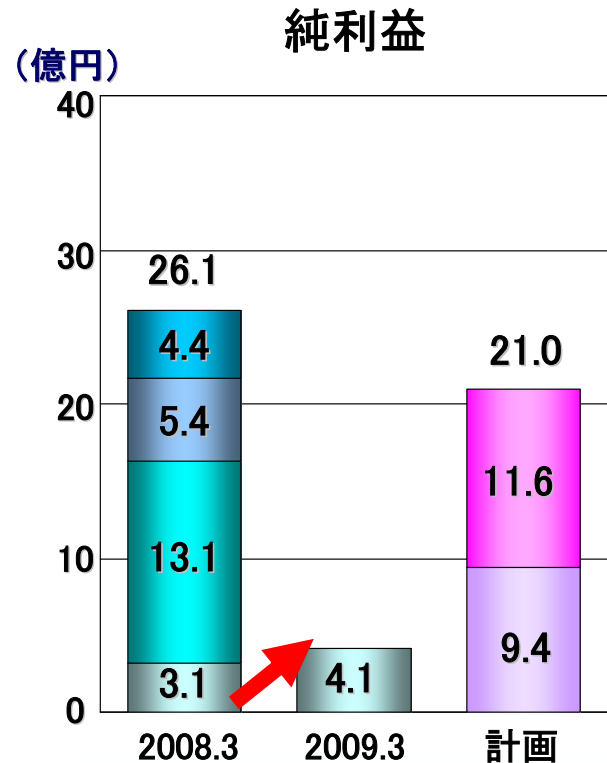
1Q実績 2Q実績 3Q実績 4Q実績 上期計画 下期計画



売上高 97.9億円
(- 5.0%) <18.8%>



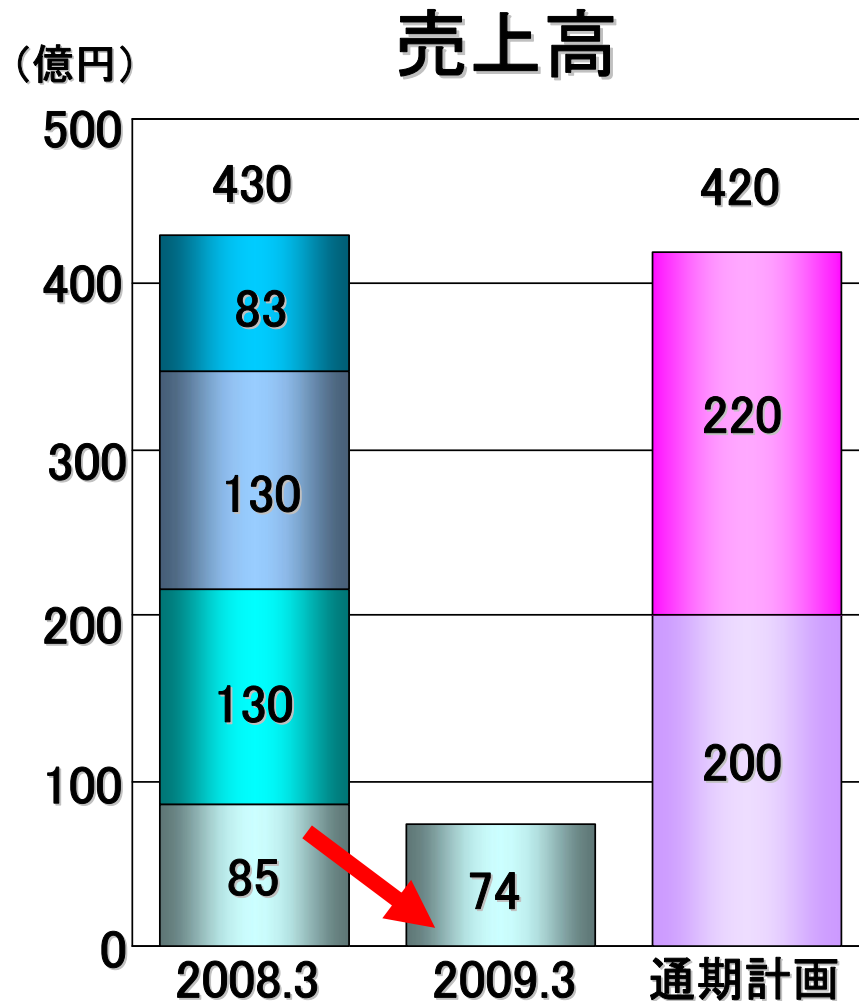
営業利益 7.4億円
(+ 64.7%) <19.7%>



当期純利益 4.1億円
(+ 31.5%) <19.6%>

※()は前年同期比増減(%), <>は通期計画進捗率(%)
 ※2008.3当期純利益において、昨年度期初に傘下の子会社2社を吸収合併した際の税額調整により利益が、通期で約7.7億円 1Qで数千万円嵩上げされた。

LSI事業の業績(ASIC)



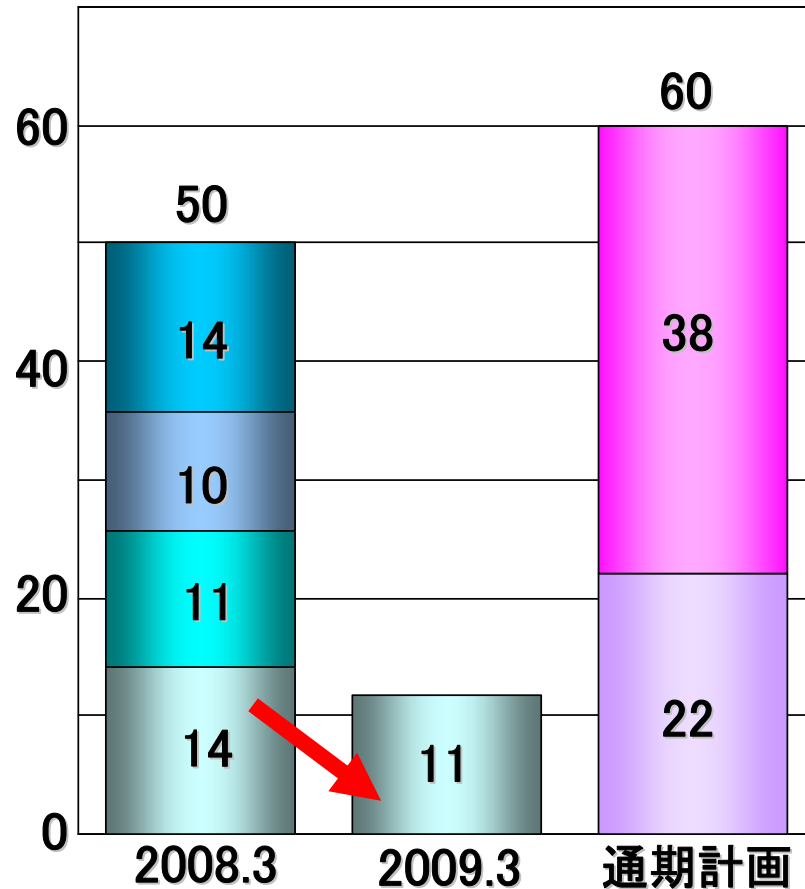
売上高 74億円
前年同期比 -13.6%
通期計画進捗 17.7%

- 携帯ゲーム機向けソフトウェア格納用LSIの需要は、引き続き堅調であるが、売上高は前年同期比で若干減少した。
- 計画に対しては当初想定どおりに進捗している。

LSI事業の業績 (ASSP及び電子部品)

売上高

(億円)



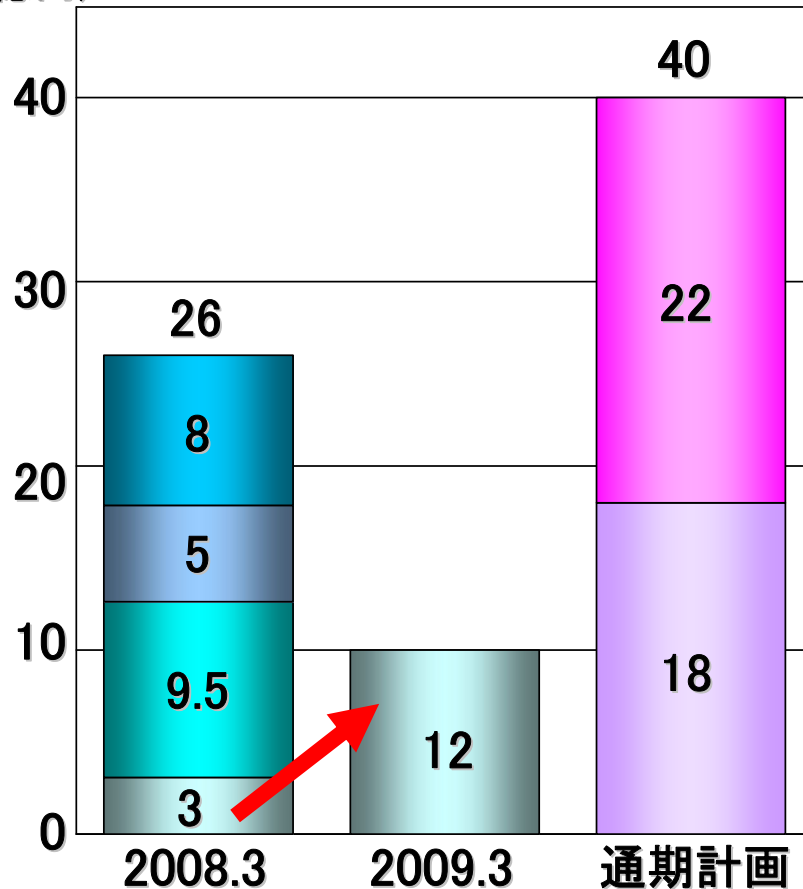
売上高 11.7億円
前年同期比 -17.1%
通期計画進捗 19.5%

- 高性能デジカメ用LSI、自社システムLSIを搭載した携帯ゲーム機用ワンセグチューナー等の需要は堅調に推移したものの、売上高は前年同期比で減少した。
- 計画に対しては当初想定どおりに進捗している。

システム事業の業績

売上高

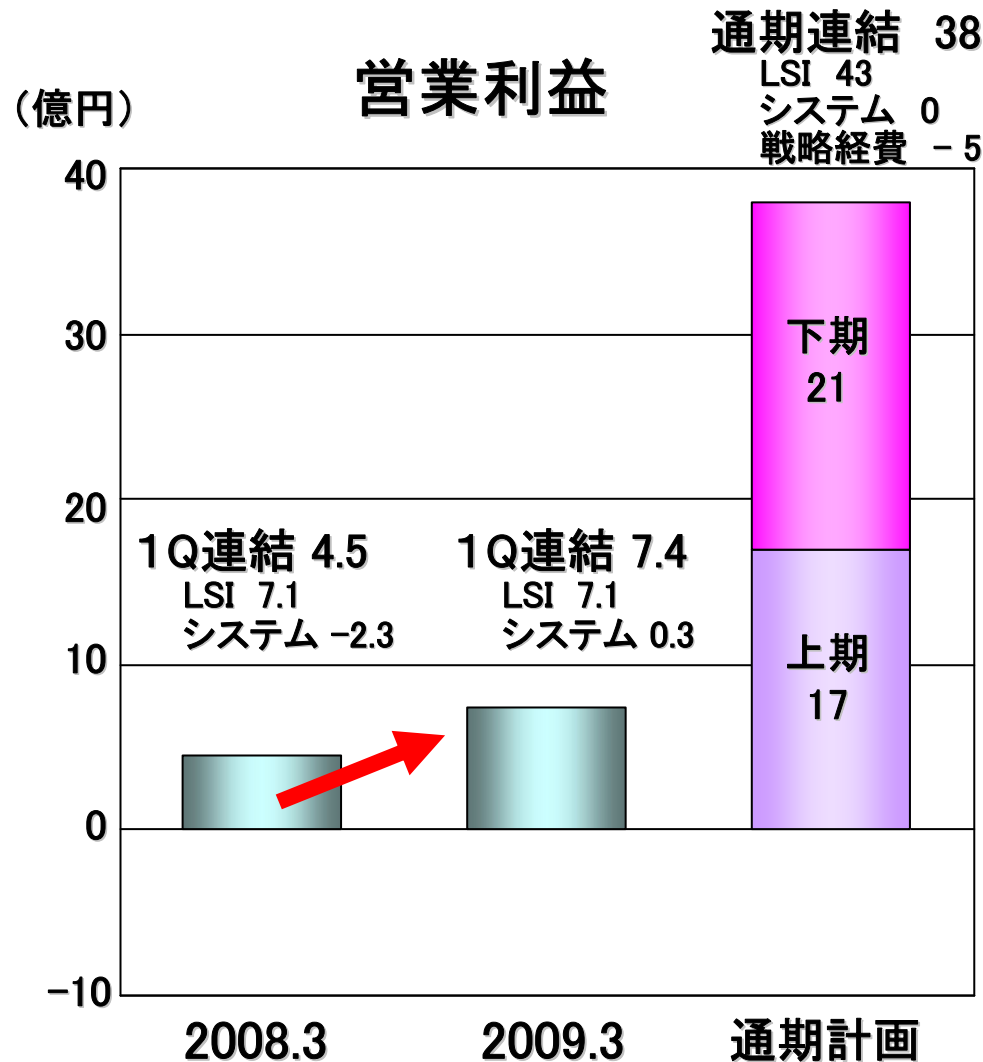
(億円)



売上高 12億円
前年同期比 +283.2%
通期計画進捗 30.2%

- 顧客専用映像監視機器の新製品が立上り需要が堅調に推移したため、売上高は前年同期比で増加した。
- 計画に対しても当初想定どおりに進捗している。

1Q営業利益(事業別)

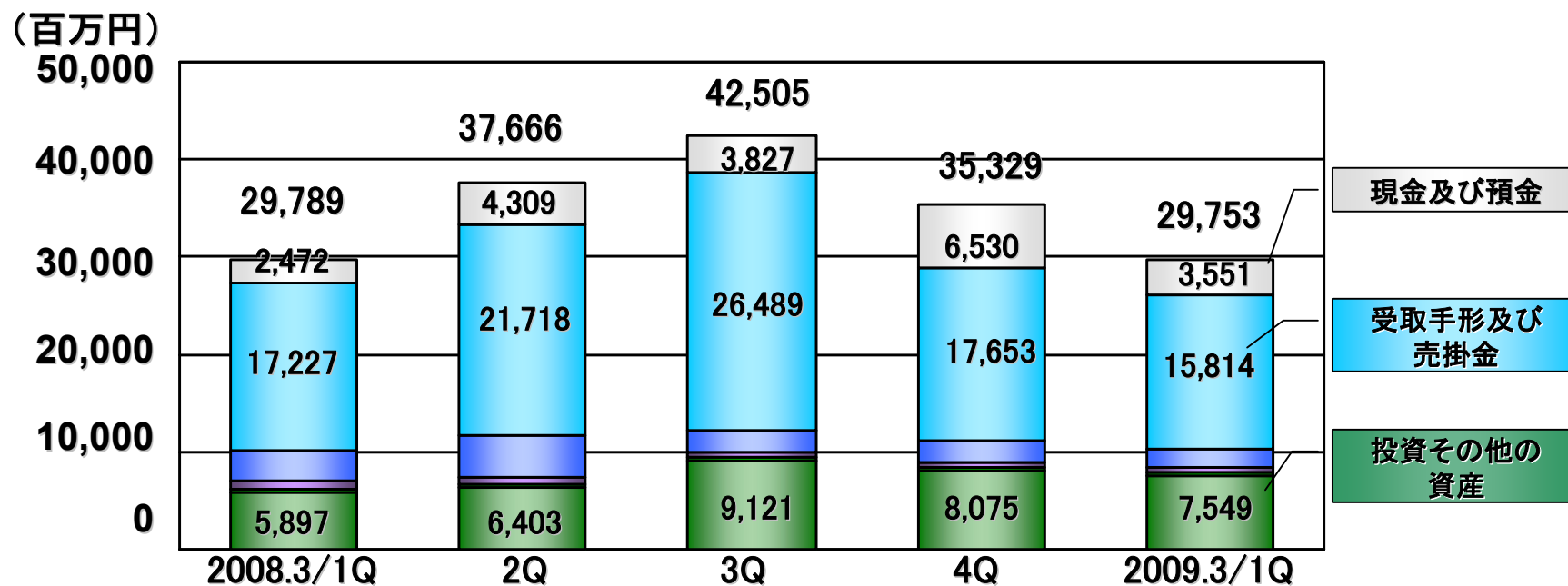


1Q LSI営業利益7.1億円
前年同期比 +1.4%
通期計画進捗 16.6%

1Q システム営業利益 0.3億円
前年同期比 - %
通期計画進捗 - %

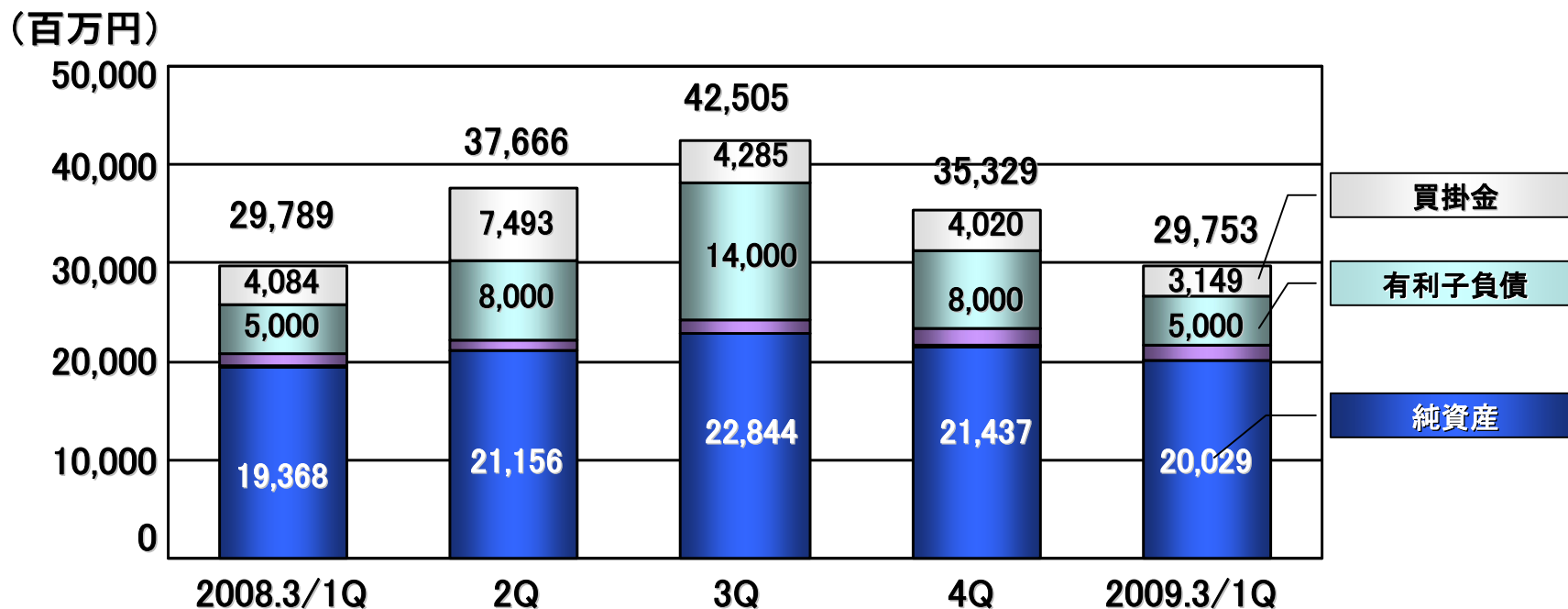
- LSI事業、システム事業ともに、当初想定どおりに進捗している。

1Q連結業績(B/S_資産)



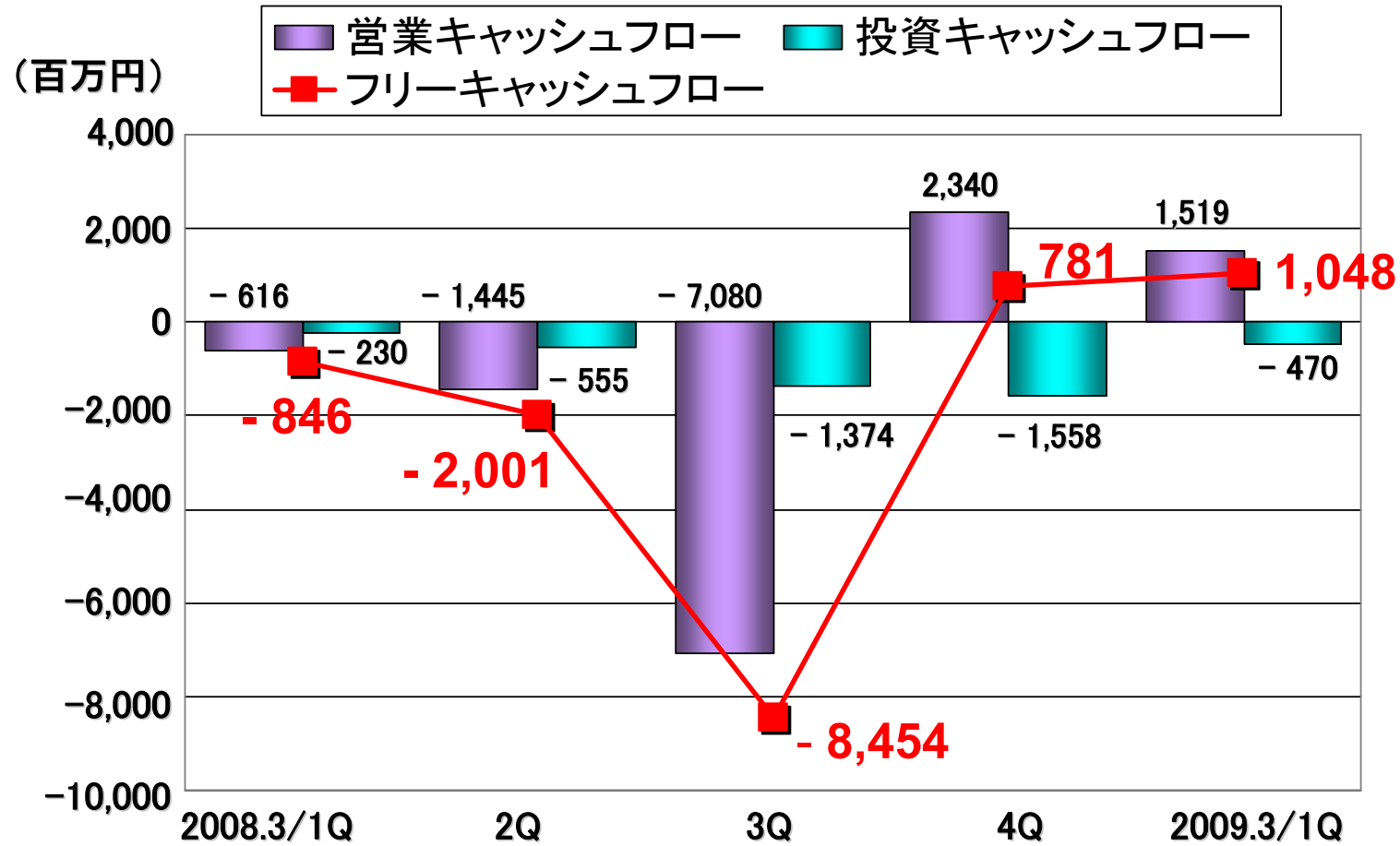
	2008.3/1Q	2Q	3Q	4Q	2009.3/1Q
現金及び預金	2,472	4,309	3,827	6,530	3,551
受取手形及び売掛金	17,227	21,718	26,489	17,653	15,814
たな卸資産	3,127	4,256	2,243	2,259	2,025
その他の流動資産	703	622	464	415	427
無形、有形固定資産	363	358	361	397	385
投資その他の資産	5,897	6,403	9,121	8,075	7,549

1Q連結業績(B/S_負債・純資産)



	2008.3/1Q	2Q	3Q	4Q	2009.3/1Q
買掛金	4,084	7,493	4,285	4,020	3,149
有利子負債	5,000	8,000	14,000	8,000	5,000
その他流動負債	1,155	958	1,284	1,648	1,523
その他固定負債	182	59	92	224	50
純資産	19,368	21,156	22,844	21,437	20,029

1Q連結業績(C/F)



1Q連結業績(P/L)サマリー

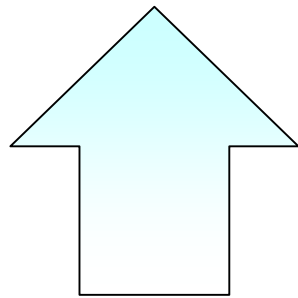
(単位:百万円)		2009.3 1Q実績	2008.3 1Q実績	2009.3 通期計画	対前年 同期比	対計画 進捗率
LSI事業	ASIC	7,416	8,581	42,000	- 13.6%	17.7%
	ASSP及び 電子部品	1,172	1,413	6,000	- 17.1%	19.5%
	売上高	8,588	9,995	48,000	- 14.1%	17.9%
	営業利益	715	706	4,300	+ 1.3%	16.6%
システム 事業	売上高	1,207	315	4,000	+ 283.2%	30.2%
	営業利益	32	- 231	0	—	—
全社共通	戦略費用	0	—	500	—	—
連結	売上高	9,796	10,311	52,000	- 5.0%	18.8%
	営業利益	748	454	3,800	+ 64.7%	19.7%
	経常利益	736	421	3,700	+ 74.9%	19.9%
	当期純利益	411	312	2,100	+ 31.5%	19.6%
	1株利益(円)	16.90	12.62	86.72	+ 33.9%	19.5%

注) 2008.3当期純利益において、昨年度期初に傘下の子会社2社を吸収合併した際の税額調整により利益が、通期で約7.7億円 1Qで数千万円嵩上げされた。

2009年3月期・中期 経営方針

中期成長戦略

変化の激しいデジタル市場の中で、顧客ニーズにいち早く応える。



強化

- 顧客専用事業の強化・拡大

- ASIC、システムの既存顧客に対して最適なソリューションを提供
- 既存顧客に次ぐ大口の新規顧客を開拓

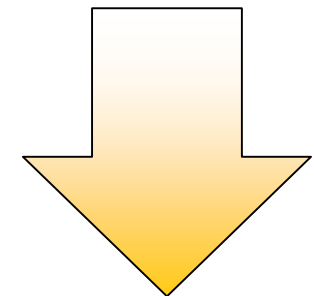
- 特定用途事業の収益機会の拡大

- システムLSIを核にしたボード・モジュールビジネスの育成

- システム事業は顧客専用ビジネスに集中

- 自社システムのリソース大幅削減
(リソースシフト:システム知識を電子部品事業に投資し立上る。)

見直し

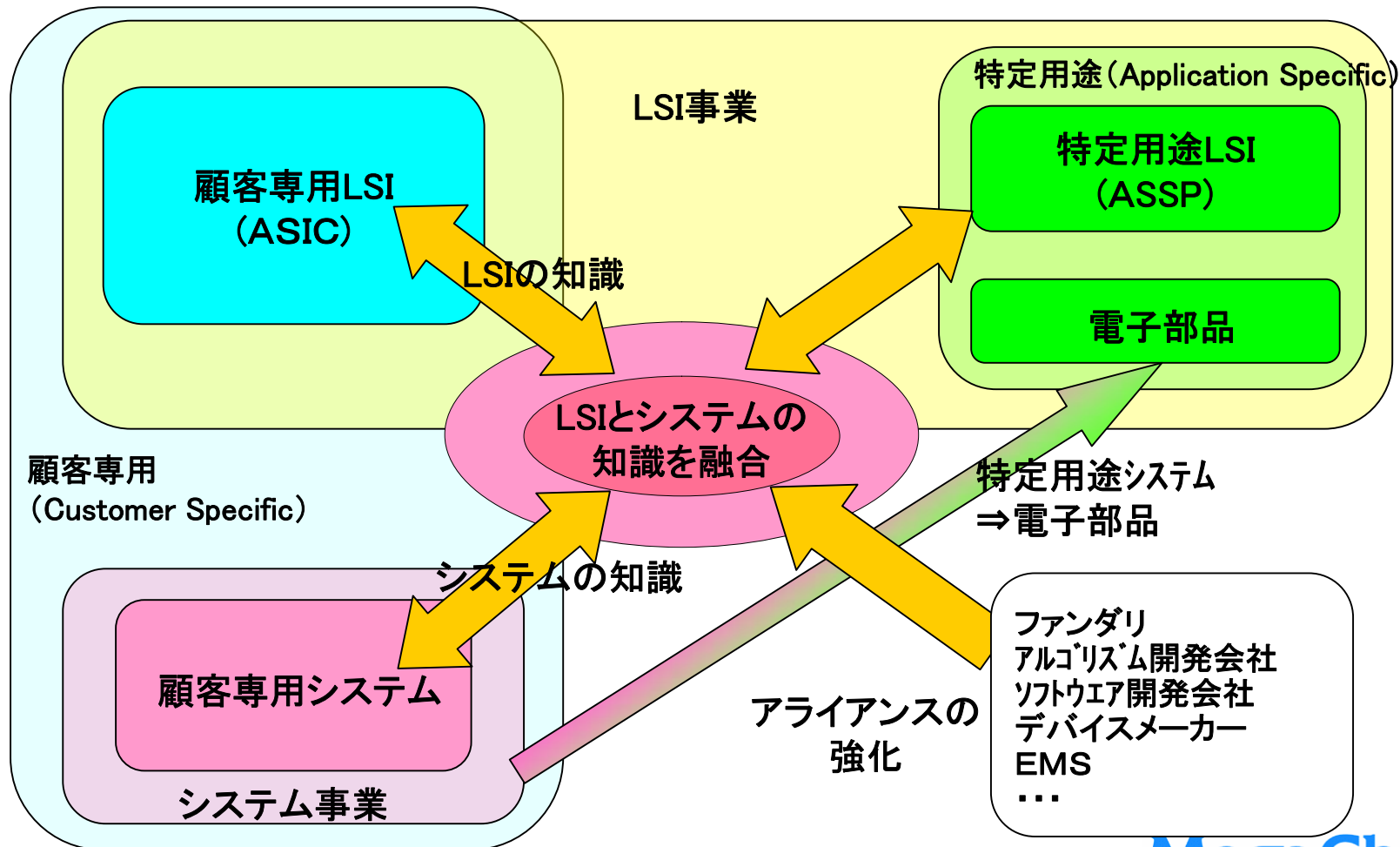


MegaChips

事業セグメント

顧客の対象を絞った(End User Market Specific)事業展開。

日本でNo.1のファブレス・ベンチャー企業



LSI事業セグメント 事業領域

ASIC事業

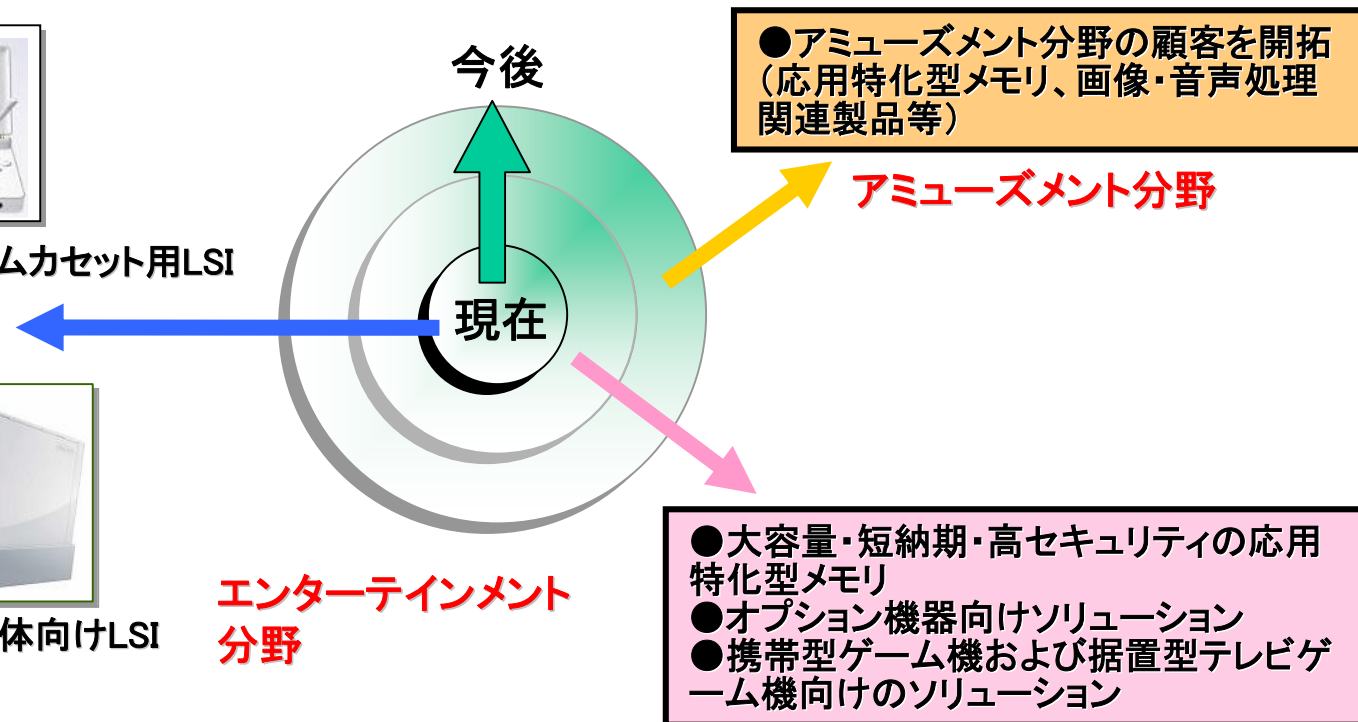
- 既存顧客への供給製品の多様化による事業基盤の強化
- 新規大口顧客の獲得



携帯ゲーム機向けゲームカセット用LSI



据置型ゲーム機本体向けLSI

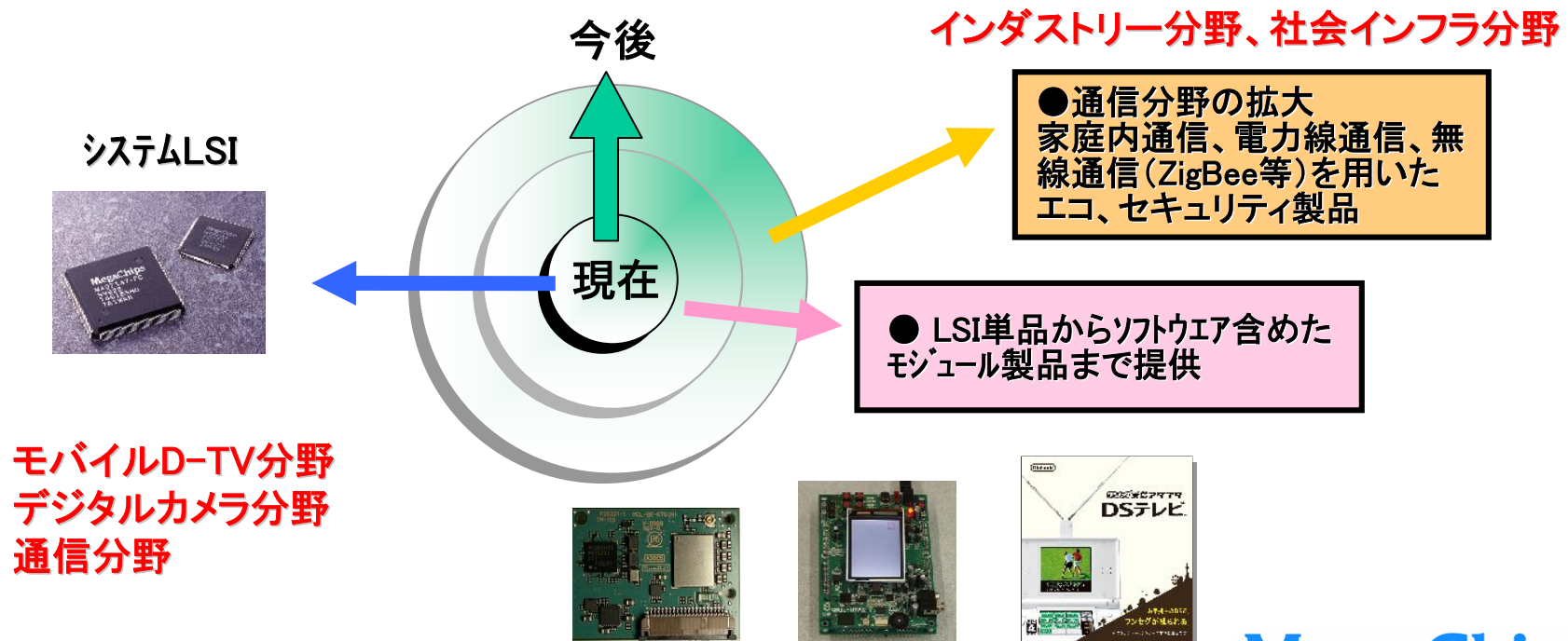


※Wii・NINTENDO DS・GAMEBOYADVANCE・ディーエス/DSは任天堂の登録商標および商標です。

LSI事業セグメント 事業領域

ASSP及び電子部品事業

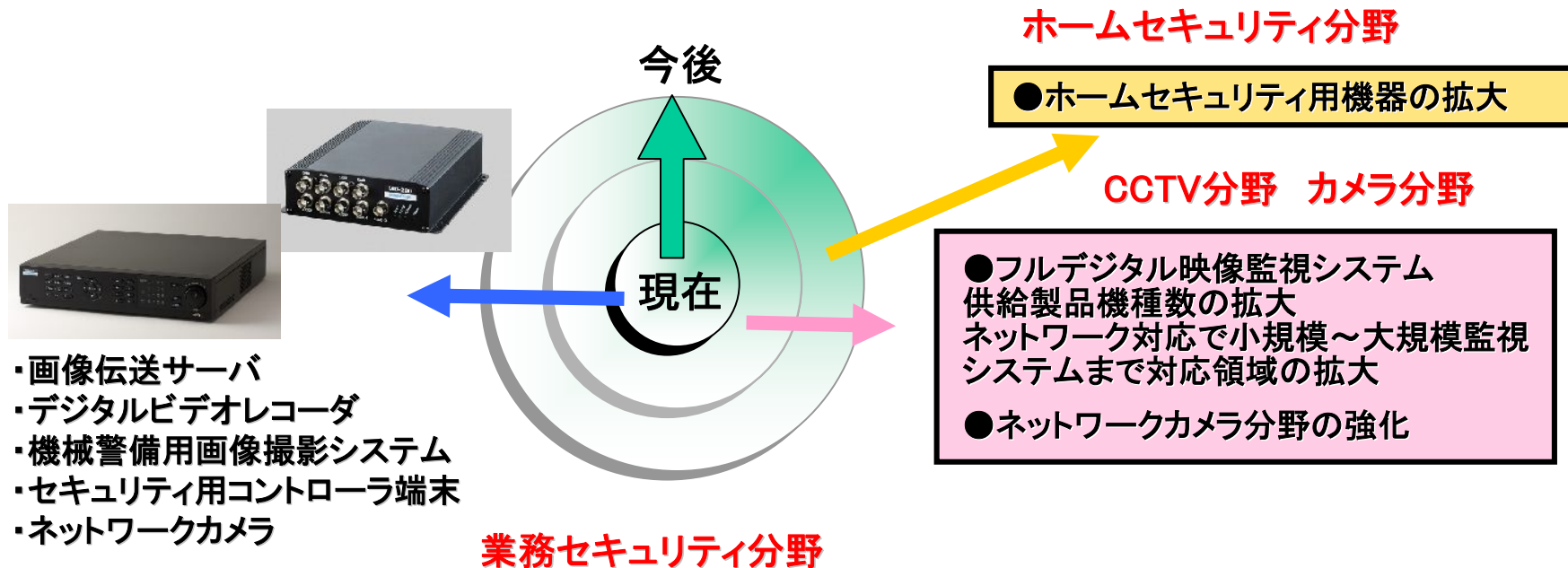
- デジタルカメラとモバイルD-TV分野に集中
- 変化の激しいデジタル時代にマッチした最適ソリューションの提供
 - 自社LSIを核にして、LSI単品からソフトウェア含めたモジュール製品まで提供
 - IPビジネス(開発資産)の展開
- アライアンスとの協業による事業スピードの向上。



システム事業セグメント 事業領域

システム事業

- セキュリティ・モニタリング用途の顧客専用システム事業に『集中』・『特化』して確実に収益事業に育成
- 既存顧客への供給製品多様化で事業拡大



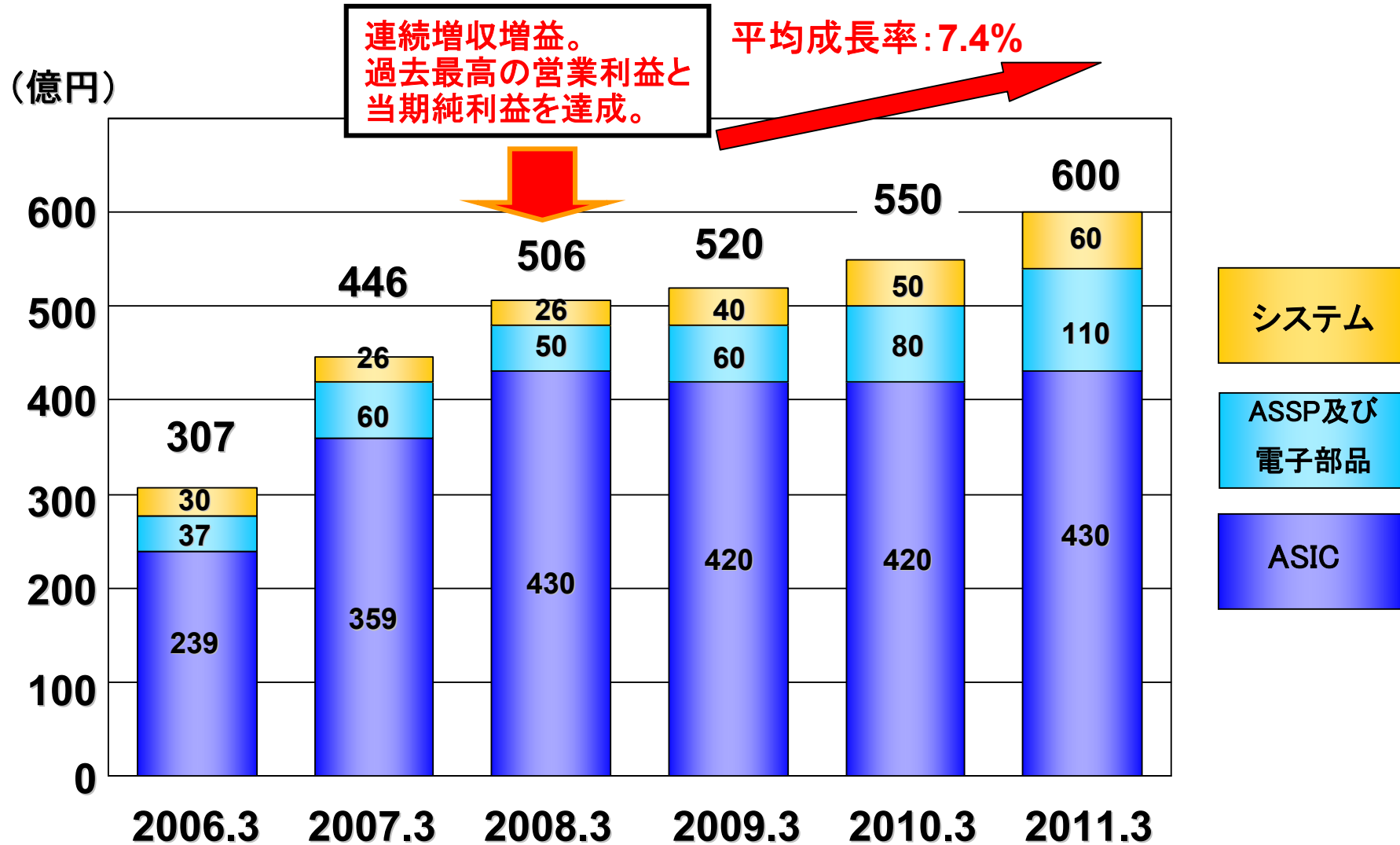
2009年3月期・中期 業績計画

2009年3月期 業績計画

(単位:百万円)		2009.3 上期 計画	2009.3 通期 計画	2008.3 上期 実績	2008.3 通期 実績	対前年 上期 実績比	対前年 通期 実績比
LSI事業	ASIC	20,000	42,000	21,624	43,041	- 7.5%	- 2.4%
	ASSP及び 電子部品	2,200	6,000	2,562	5,020	- 14.1%	+ 19.5%
	売上高	22,200	48,000	24,186	48,061	- 8.2%	- 0.1%
	営業利益	1,800	4,300	1,942	4,245	- 7.3%	+ 1.3%
システム 事業	売上高	1,800	4,000	1,269	2,609	+ 41.8%	+ 53.3%
	営業利益	-100	0	-294	- 737	—	—
全社共通	戦略費用	0	500	—	—	—	—
連結	売上高	24,000	52,000	25,456	50,671	- 5.7%	+ 2.6%
	営業利益	1,700	3,800	1,600	3,444	+ 6.3%	+ 10.3%
	経常利益	1,650	3,700	1,534	3,304	+ 7.6%	+ 12.0%
	当期純利益	940	2,100	1,627	2,612	- 42.2%	- 19.6%
	1株利益(円)	38.44	85.88	65.67	105.60	- 41.5%	- 18.7%

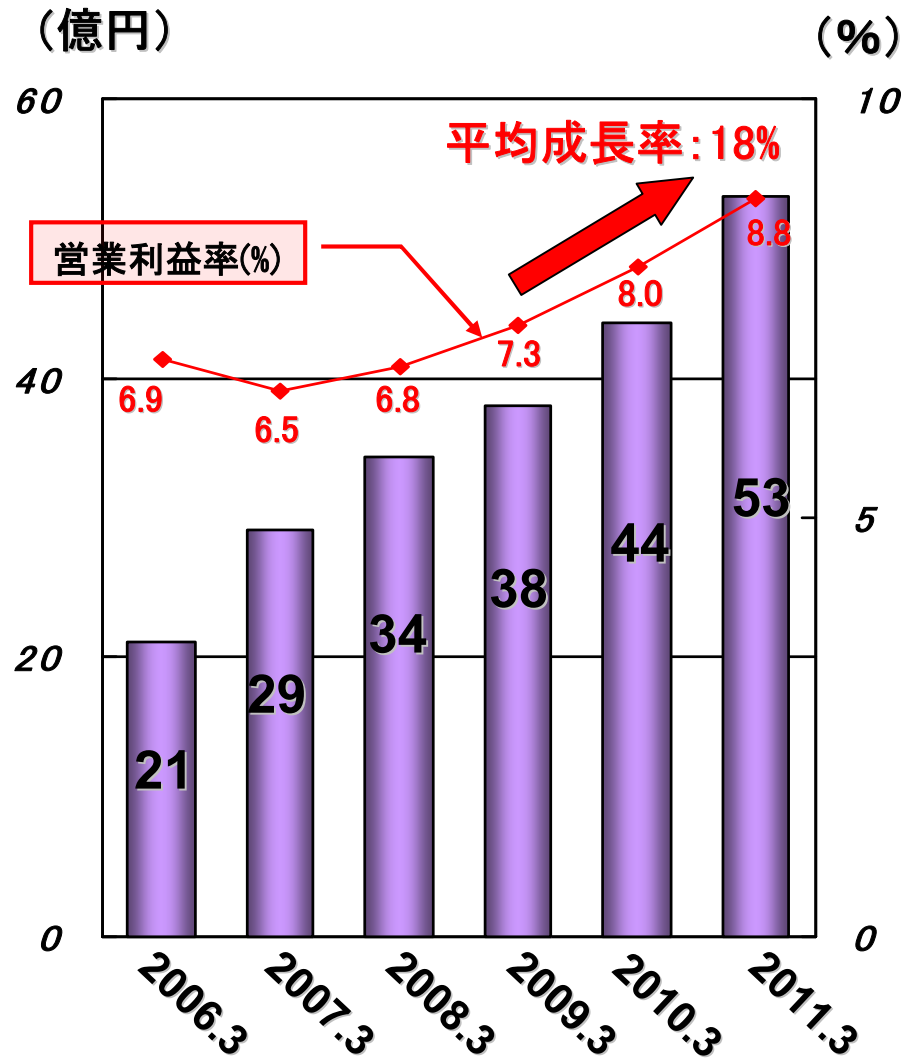
注) 2009年3月期の当期純利益の計画が前期比でマイナスとなっている理由は、2008年3月期に傘下の子会社2社を吸収合併した際の税額調整により2008年3月期の利益が約770百万円嵩上げされたことによる。

中期売上高目標

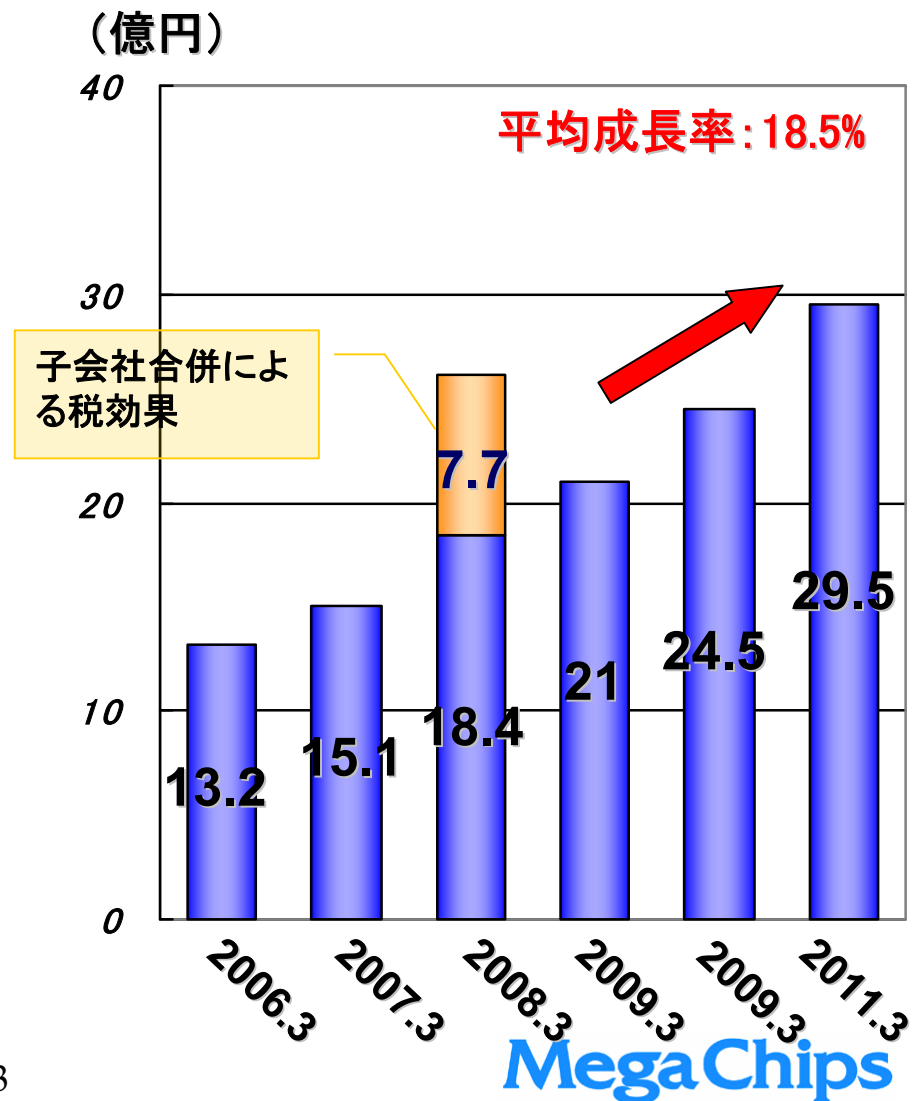


中期業績目標

営業利益



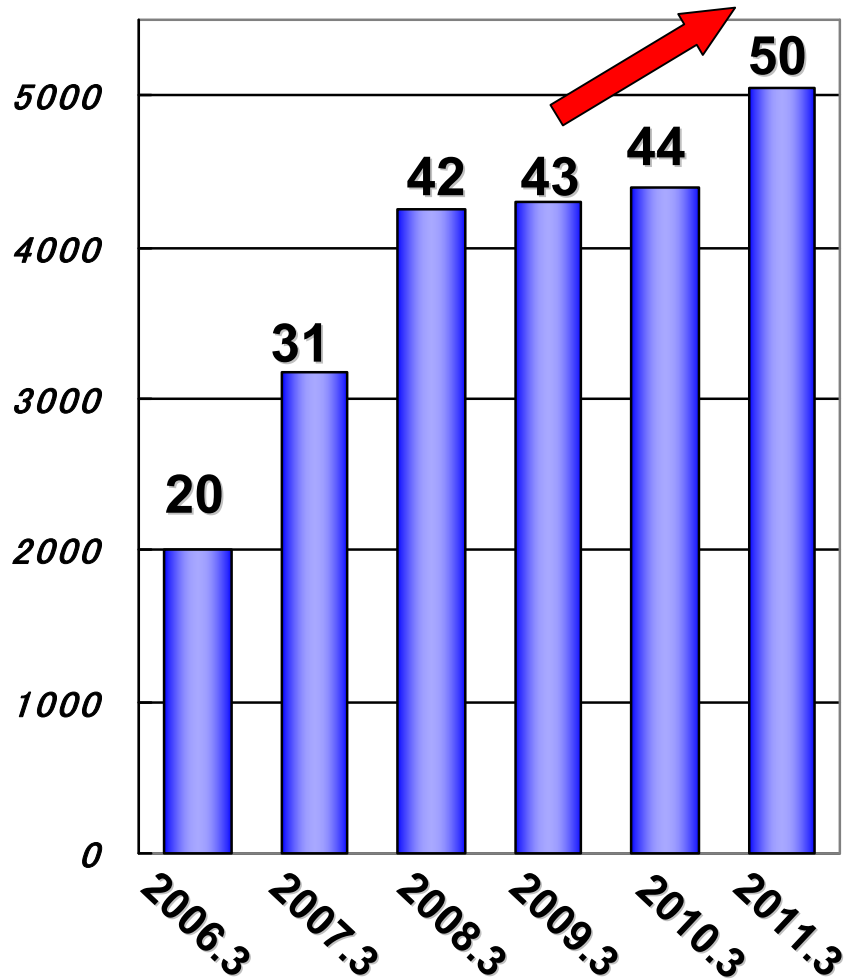
当期純利益



中期業績目標(事業別)

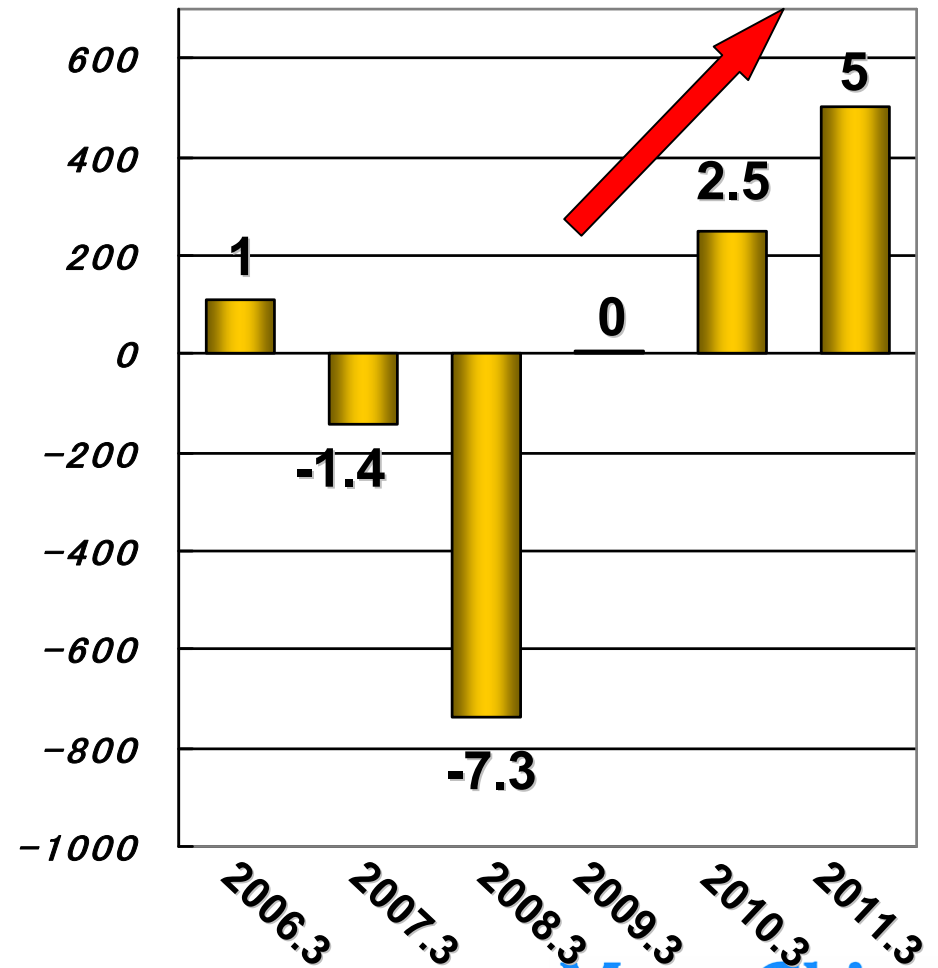
LSI事業営業利益

(百万円)



システム事業営業利益

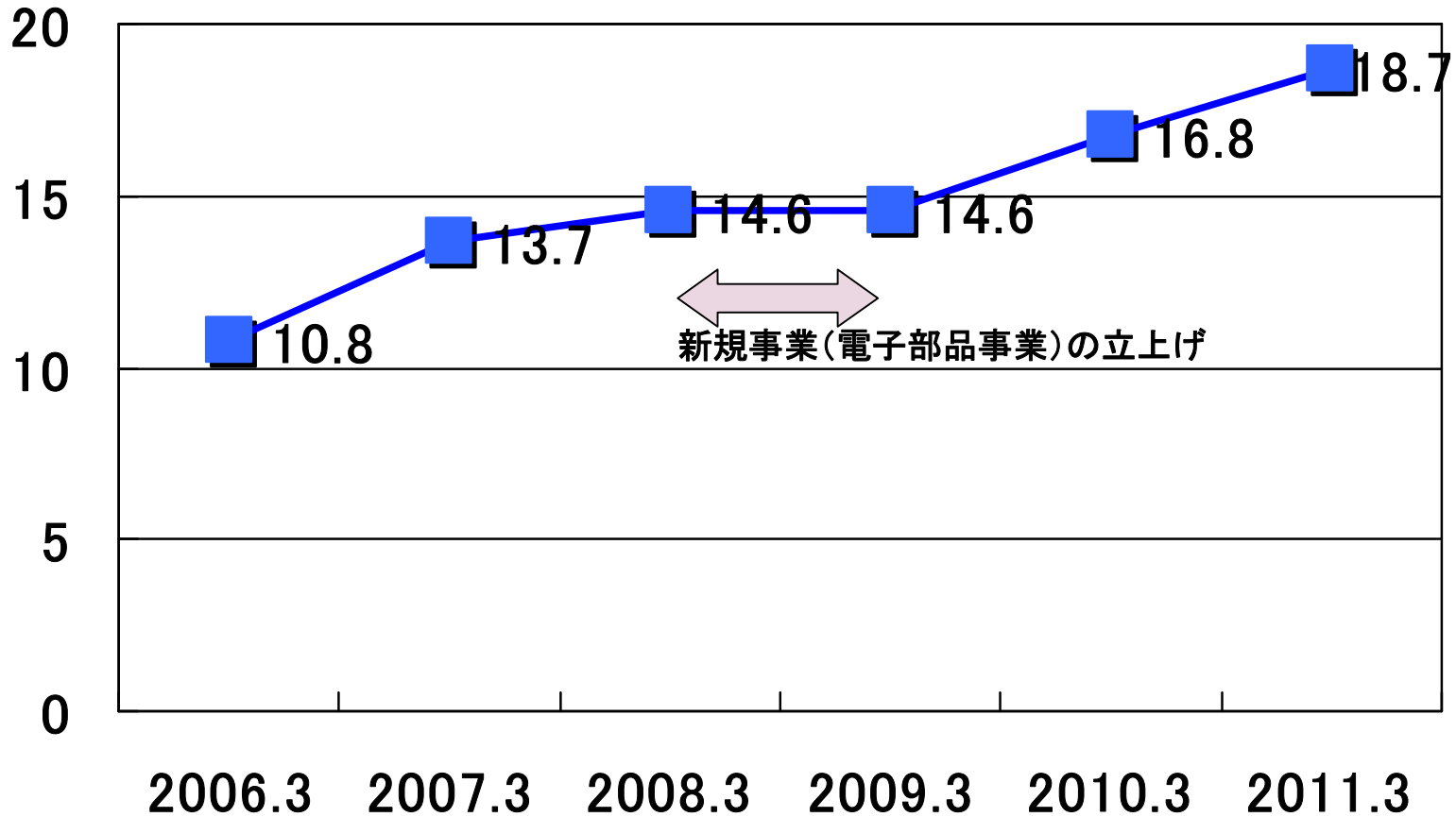
(百万円)



従業員1人当たりの生産性

1人当たりの営業利益

金額(百万円)

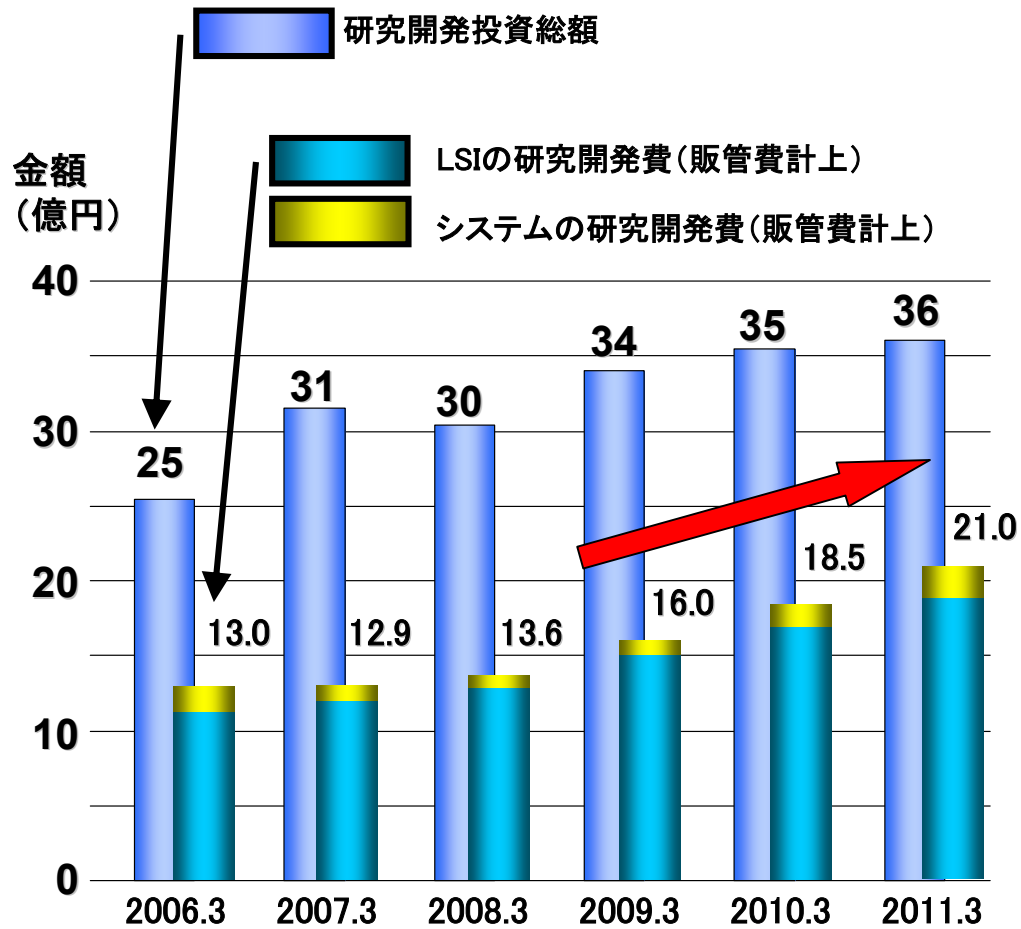


■ 営業利益

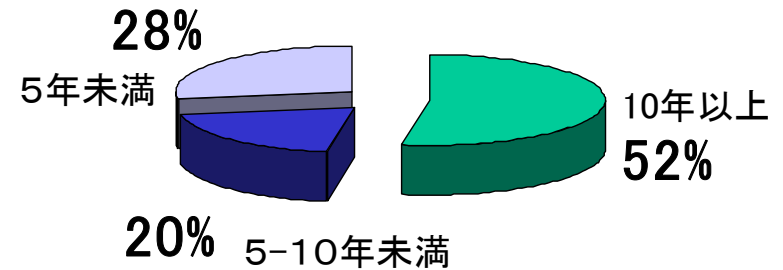
研究開発費・知的財産

積極的な研究開発投資

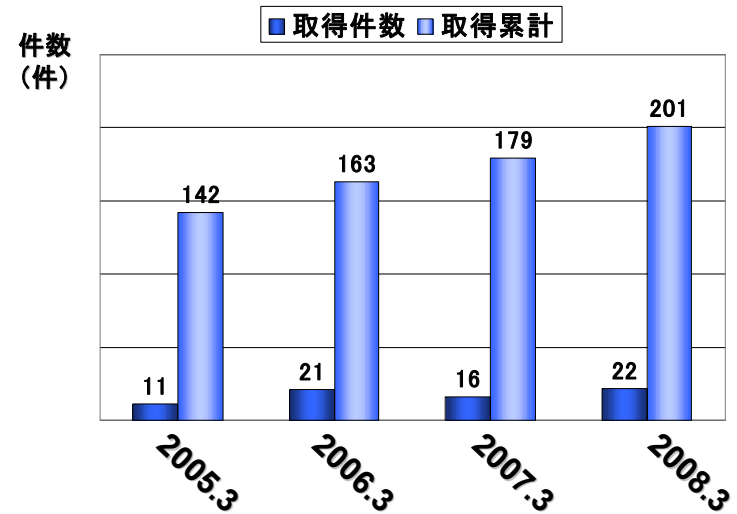
1) 研究開発投資



2) 研究開発部門人材 (2008.4月現在) (経験年数分布)



3) 特許 (2008.4月現在)



知的財産

2008年3月期 特許出願した主要技術一覧

LSI事業

- 半導体メモリーの秘匿性・耐タンパ性向上・コピー防止技術
- 大容量書き換え可能メモリーの管理・制御技術
- H.264 に関するアルゴリズム・アーキテクチャ・地上波デジタル放送受信技術
- デジタルカメラ向け画像処理アルゴリズム・回路技術
- トランスコーダー関連技術
- 画像圧縮伸張アルゴリズム

システム事業

- 監視カメラのデジタル画像処理技術
- デジタルCCTV システムに関する技術
- ドアホン、ネットワークカメラ、無線LAN に関する技術
- 映像記録装置の長寿命化に関する技術

自社特許により競争優位性を獲得している製品の一例

デジタルカメラ用画像処理LSI

- 画素補間、色補正、ノイズ除去等の高画質・適応的画像処理技術
- 多種類の撮像センサーに対応させる処理回路技術
- センサーの高解像度化に伴う大容量データの高速処理を低消費電力で実現する技術
(超高速高画質画像処理ユニット(Pixessor TM))

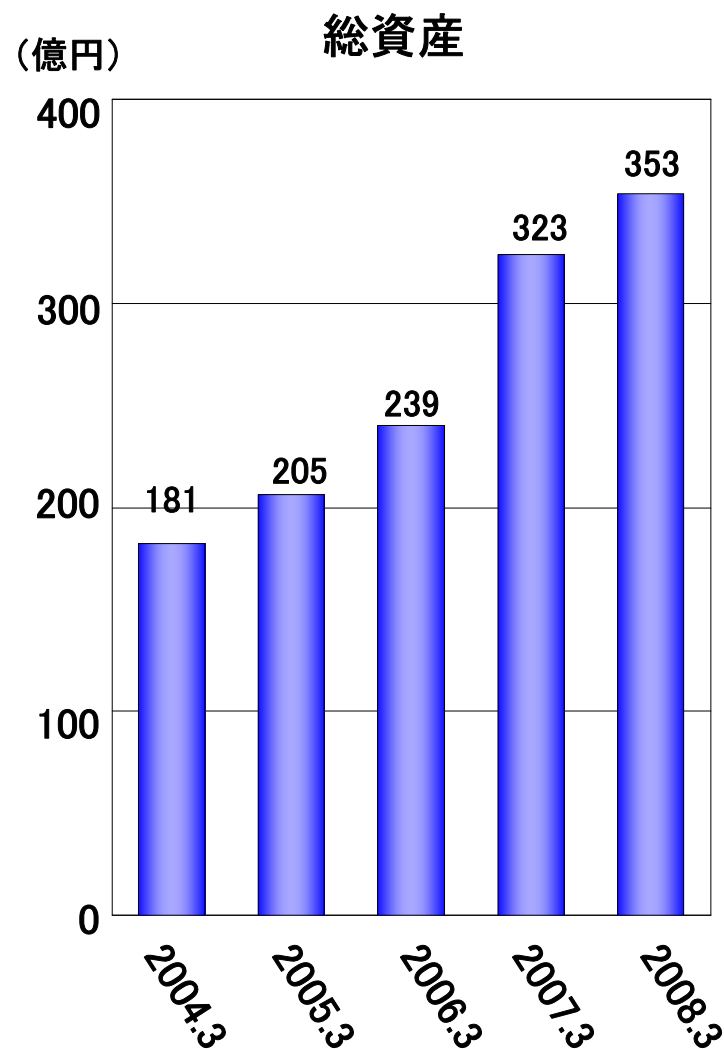
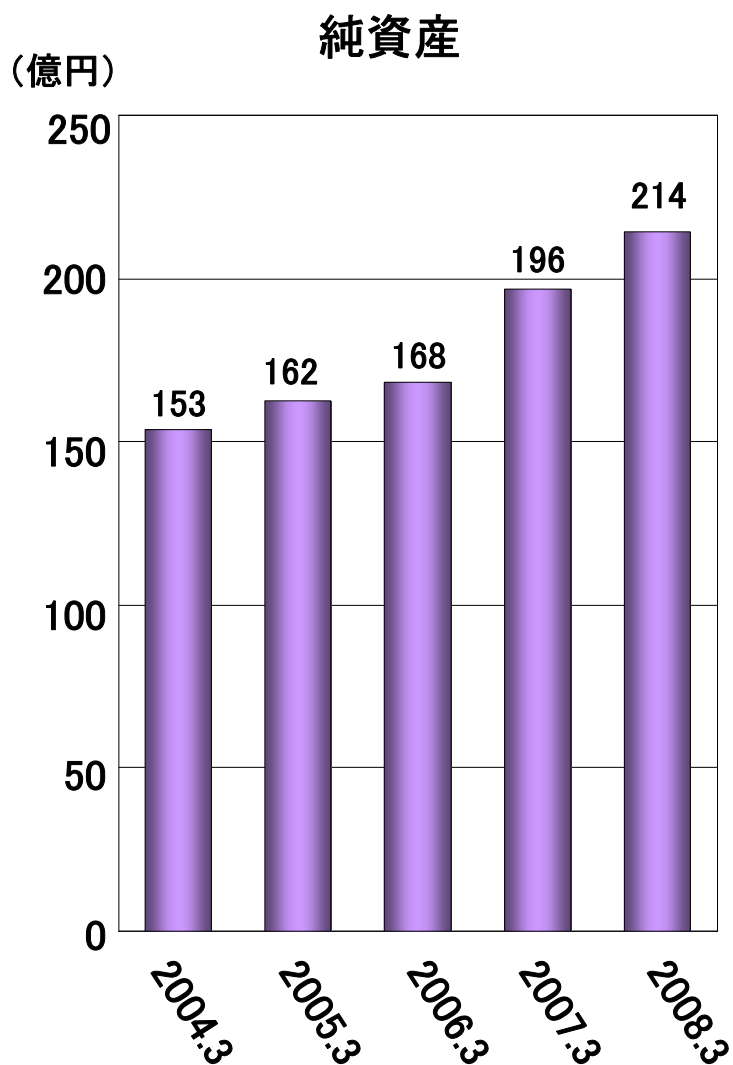
地上デジタル放送向けLSI

- 高速移動時の受信性能向上・安定化技術
- 高速チャンネルサーチ技術
- ゴーストに対応し、良好な受信特性を得る技術

エンターテインメント用カスタムメモリー

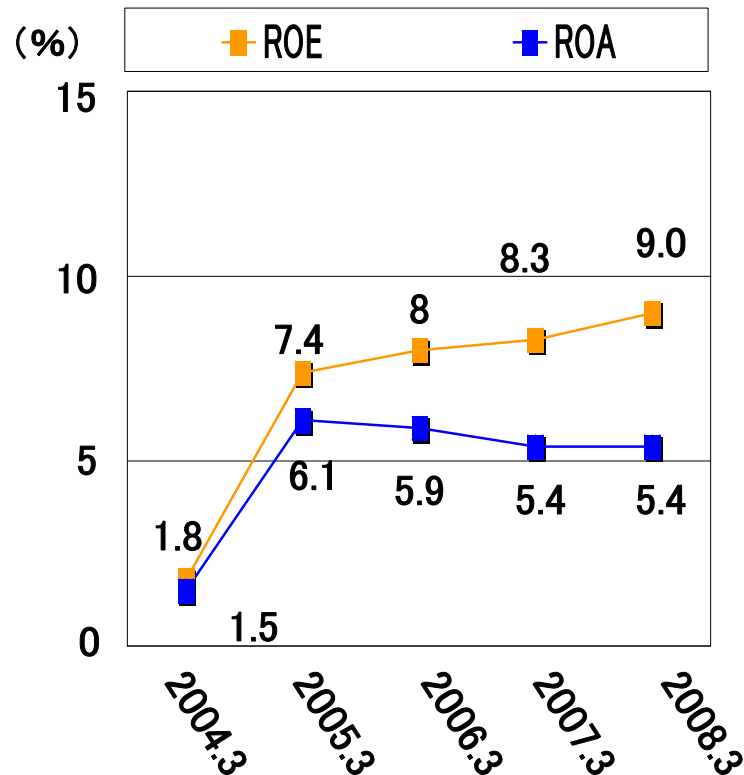
- 大容量、高速インターフェース、セキュリティ向上等の実現に関する技術

純資産・総資産(過去5年間)

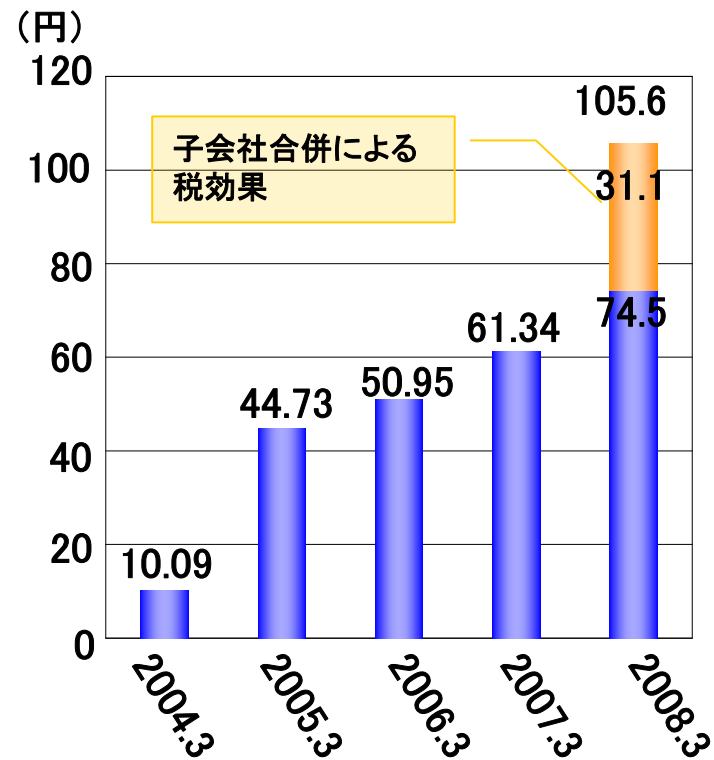


経営体質(収益性、効率性)

ROE, ROA



1株当たり当期純利益



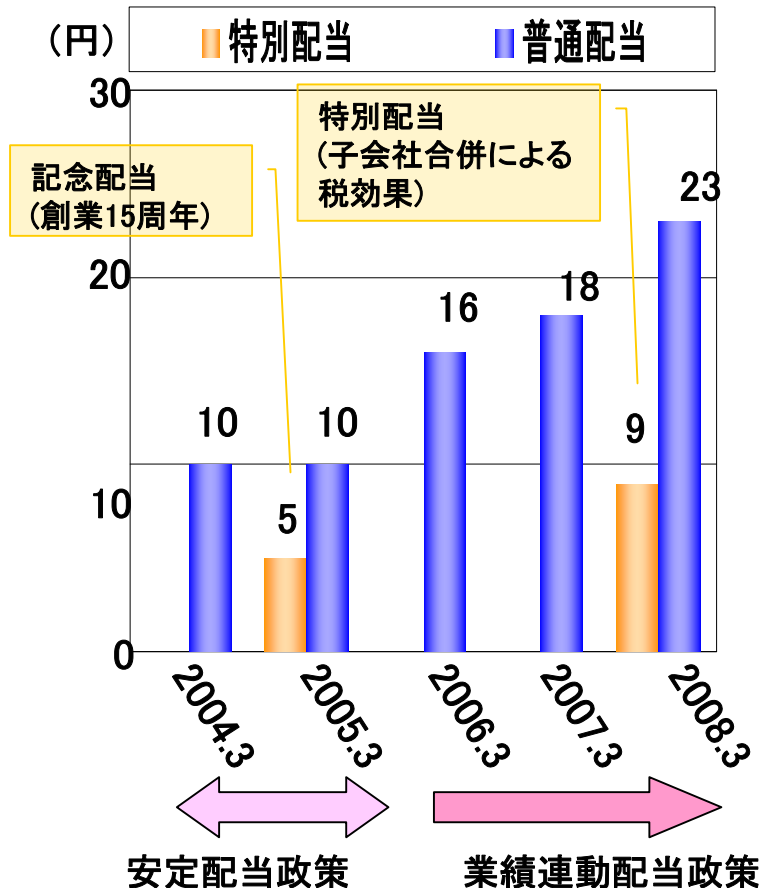
※2008.3月期は、連結子会社を吸収した際に引き継いだ繰越欠損金の税効果(約7.7億円)を除いて算出しています。

なお、上記効果を含めた場合、ROE 12.7%、ROA 7.7%となります。

経営体質(利益配分)

【基本方針】

配当性向は連結当期純利益の30%程度、もしくは10円のいずれか高い方を1株当たりの年間配当金としてゆく考え。



【自己株式の取得と償却】

<2009.3月期>

取得期間 2008.5.12~2008.5.19

取得株式数 237,200株

取得総額 299,891,600円

↓

自己株式の消去

消去株式数 237,200株

消去日 2008.6.30

<2008.3月期>

取得期間 2008.2.5~2008.2.13

取得株式数 334,700株

取得総額 499,987,400円

↓

自己株式の消去

消去株式数 1,034,700株 ※1

消去日 2008.3.31

※1 すでに保有する金庫株700,000株を合わせて消去

まとめ (Key Investment Highlights)

当社の得意分野である顧客専用事業を強化・拡大すると共に、ASSPの拡大と、これらLSIを活用したボード・モジュール等の電子部品事業を立ち上げ、更なる成長を図る。

顧客専用事業

- ASICは収益基盤事業として堅持する。
- システム事業は、顧客専用分野に特化して収益事業に育成する。
- 既存顧客への供給製品の拡大と、新規の有力顧客開拓に注力して、顧客専用の事業拡大を目指す。

特定用途事業

- ASSPは既存事業の延長である携帯電話、高画質デジタルカメラに加えて、コンパクトデジタルカメラ、地上デジタルTV受信携帯電話、車載TV、HD映像機器等の応用分野を開拓。高級機種から普及機種へ対象を広げる。
- 電子部品事業は、当社のASSPを核に、ボード・モジュール事業を展開して事業機会の多様化による事業拡大を目指す。
また、インダストリー・社会インフラ分野への新たな展開。

IRポリシー

≫ 基本姿勢

当社は、「公平性」「適時性」「正確性」「継続性」に配慮して、経営戦略や財務状態等の会社情報を発信し、経営の「透明性」を高めるとともに、株主・投資家・証券アナリストの皆さまからの当社に対する信頼と適切な評価を得るために、経営者自ら積極的なIR活動に取り組みます。

≫ 情報開示の基準

当社は、金融商品取引法、会社法等の諸法令(以下、「法令」)、また当社の株式が上場されている東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示に関する規則」(以下、「適時開示規則」)を遵守してディスクロージャーを行います。また、法令ならびに適時開示規則に規定される開示基準に該当しない場合でも、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報や、当社への理解を深めていただく上で有用であると思われる情報は、積極的に開示します。

≫ 情報開示の方法

当社は、適時開示規則に定める開示基準に該当する情報、株主・投資家・証券アナリストの皆さまの投資判断に影響を与えられとされる情報は、適時開示規則に従い、東京証券取引所が運用する適時開示情報伝達システム Timely Disclosure network (TDnet) を通じて開示するとともに、速やかに当社のインターネット上に開設するホームページ(以下、「ホームページ」)に掲示します。
また、これら以外の情報についても、当社を理解していただく上で有用であると思われる情報は、IR情報誌等の発行や、ニュースリリースの配信やホームページへの掲載を通じて情報発信します。

IRポリシー

≫ 将来の見通しについて

当社が開示する情報の中で、業績予想や将来の予測等に関する記述は、その情報が開示される時点で経営者が入手した情報に基づき判断した予想であり、不確実性や潜在的なリスク(以下、「リスク」)が含まれる場合があります。しかし、結果としての業績等は、変化するさまざまな要因によって、予想とは異なることがありますことをご承知おきください。これらリスクは「事業等のリスク」として開示に努めますのでご参照ください。

≫ 投資の判断

当社の開示する情報は、当社に対する理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご自身の判断において行なわれますようお願いいたします。

≫ 第三者が発行する当社情報への対応

証券アナリストや報道機関、インターネット上のさまざまな情報サイト等の当社以外の第三者が発信する、当社の情報・業績予想等各種情報については、当社はコメントやこれらを支持する立場にはありません。ただし、これらの内容に明らかな誤りが含まれており、当社への信頼と適切な評価が得られないと判断する場合には、その誤りを訂正し、正確な情報を伝えるための対応をいたします。

≫ IR沈黙期間

当社は、株価に影響を与える決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、各四半期の、決算日の5営業日前から決算発表日までを沈黙期間と定めます。この期間中は、決算に関連するお問い合わせへのコメントを控えさせていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。ただし、法令や適時開示規則に該当する情報については、沈黙期間中であってもディスクロージャーを行った後、お問い合わせに対応いたします。

≫ 関連

適時開示に係る宣誓書(東京証券取引所ホームページに掲載)
適時開示体制概要書(東京証券取引所ホームページに掲載)
情報開示標準(当社社内規則)

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社メガチップス
財務経理統括室 広報グループ

ir-team@megachips.co.jp

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4丁目1-6 アクロス新大阪
TEL: 06-6399-2884(代) FAX: 06-6399-2886